

原発に未来を託しゆれる町

竹本 夕エ子

この子らの未来を想う暑き夜

田中 たづ子

照り返しサウナを負かす酷暑の日

佐藤 哲夫

熱狂の甲子園には猛暑呼び

重宗 隆治

「どこかのうさつき脱いだオレのズボン」

藤井 節子

正座して開くアルバム終戦日

林 保江

庭火花縮めた腕の指光る

金内 憲一

重責を終えて安堵の汗を拭く

三戸 志津江

炎天や老女の首の白タオル

賤間 由美子

父のこと妣ははには内緒墓洗う

田中 孝利

短歌

好物のお稲荷いなりさんをカートに入れ昨日の諍いさかいおわびのしるし

江川 詳子

泣き笑い何があっても慕い来るその愛おしさが母とう証

財間 星

丸窓に個々の暮しが廻りおるコインランドリーはコミュニティ

原田 たえ子

草の葉を強く掴うつみて空蟬せみの地上の穴は其処そこ彼処かしこにあり

末永 敦子

背戸せとの川流れゆるやかひんやりと汗に濡れたる野良のら着洗ぎふ

川本 禮子

自由律俳句

たまごやきはすこしあまめに帰省まつきせい

西岡 悦子

サイダーのみほしている玉の汗

松下 満江

めざめておもうふるさとのこと

佐川 智英実

まん丸な月で心はずんでいる

岡部 雅江

歩いてても歩いてても100才の道

弘中 幸友